



夏休みの思い出
～みんなで元気よくラジオ体操♪～

7月28日・29日に公民館寺子屋が開催されました。2日間で延べ24名の小学生が参加してくれました。寺子屋は、夏休み中の小学生を対象に、勉強やレクリエーションを通じて地域住民の皆さんと交流する行事として、今年度で6回目の開催となりました。

参加者の小学生たちは、各自持参した夏休みの宿題を、住民や松本大学生の学習ボランティアの皆さんに教わりながら真剣に取り組みました。勉強後のレクリエーションとして、初日にはNHK長野放送局「ちびゆりのみんなでDISCO」でお馴染みの、

公民館寺子屋で 夏休みの思い出を



新村の人口・世帯数	令和4年9月1日現在
世帯数	1,324 戸
男女	1,528 人
合計	1,636 人



ちびゆり先生と一緒にダンス♪



先生たちに教わりながら...

材料を一生懸命ませませ



成途中、子ども達からの質問に学生の皆さんが優しく受け答えをしてくれ、楽しいひと時を過ごしながら思い思いにスライムを作ることができました。

ちびゆりさんをお招きし、楽しく踊れるダンスを学びました。ちびゆり先生のお手本を真似ながら振付を覚えていき、最後には自分たちだけで踊れるようになりました。2日目は松本大学教育学部の4名の学生が講師となり、スライム作りを体験しました。指定された材料を順番に混ぜていき、カラフルなスライムを2種類作りました。作

今年も現在まで、地区の行事が全て中止となり寂しい限りだ▼所属する松本市スポーツ推進委員協議会では、3年ぶりに「ファミリースポーツカーニバル」の開催に向けて、昨年からの準備を進めている▼参加者は、受付時、検温や体調の確認後「安全な人」を証明するリストバンドを着けていただき入場する。スタッフは新型コロナウイルス検査（抗原検査キット）を行い、参加者とは異なるリストバンドを着ける▼実施内容も今までは違い、密を避けるため午前と午後の種目を変えたり、減らしたりと工夫している。どれくらい参加してくれるか未知の世界だが楽しみだ。まずは一歩踏み出して反応を見たい▼新村地区では昨年唯一実施できた、体協の「ニュースポフェスIN新村」。今年もそれだけはやろう！と計画にある。コロナ禍でもできることをみんなで探して、参加者と共に楽しみ、次に繋げていきたいものである。

八束穂

新型コロナウイルス感染症が流行して、現在は第7波の真っ只中。猛暑の中、日々マスク着用・手指消毒等、感染対策をしながらの行動。

シリーズ
新村地区の輝く人 ⑤

上新東で胡蝶蘭栽培をして
いる「細江洋蘭園」の細江
弘光さん、岳さん親子を訪ね、
お話を伺いました。



胡蝶蘭を育む細江さん親子

●長野県では、細江さんが唯一、胡蝶蘭を商業栽培をされているようですが、いつ頃からですか？

◎以前はトルコキキョウやストックなどの切花を栽培していました。平成2年から胡蝶蘭に取り組んでいます。

現在は、ガラス温室4棟で24,000鉢を家族3名とパートさん3名とで栽培しています。通年、一日40鉢ほどを出荷しています。

●高額商品だと思えますが、市場はどちらですか？

◎地元への出荷もありますが名古屋、大阪が多いです。店舗のオープンや会社役員就任祝いなど、衆議院選挙の時に需要があります。

●デリケートなイメージがありますが、どのような栽培の苦労がありますか？

◎温度管理は15℃〜25℃に保ちます。夏場は冷房代が、冬場は暖房代が大きな出費になります。水は花にかからないように水やりをします。

始めたころは、苗から育てていましたが、10年ほど前からは台湾から苗を輸入するようになり、半年ほどで出荷できるようになりました。検疫で害虫や病気の影響もなくなりました。良い蘭を出荷出来るように日々努力しています。

最近では、燃料代の高騰、円安などには苦労しています。



繊細な仕立て作業を行う岳さん

●息子さんの岳さん、やりがいや将来の展望などお話をください。

◎良い花が栽培、出荷できればとても嬉しいです。父の苦労を忘れないように、購入者に微笑んでいただけるように、これからは頑張りたいと思います。

ものごと大学

自然観察会〜上高地散策〜

7月19日、参加者15名でものごさ大学・自然観察会が行われました。今回は画家で日本山岳协会会员の千葉潔さんの案内で、日本有数の景勝地「上高地」を巡りました。夏を迎えた穂高の山々を見上げ、散策路を観察しながらゆっくりと歩きました。途中立ち寄ったアルペンホテルでは、案内役の千葉さんの作品展が開催中で、上高地の自然の美しさが繊細に描かれた絵画を堪能しました。色々な興味深いお話の中、特に印象的だったのは「上高地の梓川は何故美しい？」という内容で、「水がきれいだから！」は当たり前。実は緩やかな流れの川底を白い石(花崗石)と白い砂が覆っていることで、光の吸収と屈折現象を起こして青く輝く光を反射することで、青く澄んだ水を見ることが出来るとのこと。上高地は、梓川の流れると穂高の山々が織りなす特別な景色なのです。この夏、賑わいの戻った上高地ですが、この美しい自然を大切に守っていただくの願いを新たにしたいです。一日でもありました。



穂高岳と梓川の清流について千葉先生から説明を受ける人たち。一日でもありました。

「お手紙プロジェクト」で交流を深める

松本大学・地域づくり考房『ゆめ』のプロジェクトの一つである「茶房ひといき」で、学生と地域住民が手紙の交換を行っています。大学は夏季休暇中であるため、通常であれば新村公民館で「茶房ひといき」が8月、9月と開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染者の増加があり、松本大学の地域活動にも制限がありました。そこで、このような状況の中でも地域住民と学生が交流できる方法として「お手紙プロジェクト」を学生が企画しました。各々の近況や思いを手紙にしたためました。その後、返信のお手紙には、学生を思いやる言葉やコロナ禍の過ごし方が書かれており、お互いに書面上で「密な」交流をすることができました。

草取りで地域貢献

小野神社での草取りを松本大学地域づくり考房『ゆめ』が企画し、学生7名が参加しました。

当日は、除草剤散布のタイミングが重なり、学生は枯れ枝や落ち葉の処理を手伝いました。雨が降る予報でしたが活動時には晴れ、学生は普段

あまり使うことのない熊手や箒を使って枯れ枝を集め、よい汗をかくことができました。活動には宮司さんと総代さんが立ち会ってください、学生は宮司さんから、地域の神社がある意味、お祭りのことやコロナ禍による影響等の貴重なお話をお聞きすることができました。

近年では少子高齢化も進んでおり、神社でのお祭りなどができないという問題もあるとのことで、学生は非常に関心を持って聞きました。

宮司さんと総代さんは、この交流に対してあたたかく受け止めていただき、地域住民と学生の繋がり大切さを実感することができました。

人事往来



新地区担当保健師 小川 彩香

8月より、新村地区担当保健師となりました小川彩香と申します。以前にも新村地区を担当させて頂いたとき、また皆さんとお会いできること、大変嬉しく思います。よろしくお願ひいたします。